



### 英語活動が小学校教育に加わることで

小学校高学年では1年間に900時間を超える授業があります。その中で、英語活動が実施される時間は全体の数%でしかありません。このわずかな時間を「英語」という特別なものに充てるととらえるのではなく、すべての教科、領域等が相互に関連し合い、総合的に実践される小学校教育の中の「一教育活動」として、英語活動を立案、実施することが大切です。

英語活動だからといって、必ずしも英語そのものに慣れ親しむことだけが「活動のねらい」になるわけではありません。例えば、ALTをはじめとするネイティブの先生が来る授業の前に、その先生の出身国について下調べをした上で話を聞くことができれば、子どもたちはより効果的な「異文化間コミュニケーション」を体験することができます。また、国語、社会、算数、理科などにおける既習内容を扱えば、学んだ内容を再確認させるとともに、あらためてその内容に興味・関心をもたせることができます。さらに、グループによる作業を通じて友だちと協力し合う活動などは、コミュニケーション能力の育成につながります。

小学校教育に英語活動が加わることは、子どもたちのもつ柔軟な適応力の可能性をさらに広げる機会になるといえるでしょう。